

# NEWSLETTER

## The Japanese Association for Arid Land Studies

### 第9回国際沙漠技術会議 (DT 9) 報告

2008年11月12日～16日 チュニジア国Douz

2008年11月12日～16日、チュニジア国Douzにおいて第9回国際沙漠技術会議 (The 9th Conference on Desert Technologies (DT 9) : Learning from the desert; from constraint to an asset) が開催され、開催国チュニジアのほかアメリカ、カナダ、イギリス、インド、中国、エジプト、エチオピア、リビアおよび日本等の研究者、技術者など158名が参加し盛大に行われた。日本からは日本沙漠学会会員を中心とする48名 (留学生などを含む) の参加であった。今回は直前の11月10～11日にチュニジア国Sousseで開催されたチュニジア-日本文化・科学・技術学術会議 (通称TJASSST) への参加者の一部や留学生も加わったこともあり日本からの参加者が多かった。

研究発表は全体で105編の論文 (口頭発表28件、ポスター発表77件) が以下の5つのセッションに分けて行われた。

Session1 : Desert energy

Session2 : Stress biology & desert agriculture

Session3 : Soil and water technologies combating desertification, remote sensing and GIS

Session4 : Desert human and social sciences societies

Session5 : Biotechnology



口頭発表風景

Field Trip では、沙漠の雰囲気を十二分に味わえるコースが準備されており、既存ウォーターハーベスティング事例 (Matmata) や Ksar Ghilaneでのテント宿泊およびラクダ乗り日没見学ツアー (オプション) を体験し、沙漠地帯の厳しい気候条件を体感した。さらに、サハラ沙漠地帯における塩類集積、太陽電池を利用した地下水の除塩プラント、開拓農村プロジェクト地区、ウォーターハーベスティングによるナツメヤシやオリーブ栽培の様子を見学した。これらの発表、見学等を通じて乾燥地をはじめとした様々な地域

における気候変動、農業生産、水不足の問題、緑化技術などに関する各国研究者との情報交換が行われたほか、ラクダ等のショーや民族舞踊などのチュニジア文化にも触れる機会もあった。

また、DT9期間中に開催されたInternational Committee Meeting において、次回以降の開催地について議論が行われ、以下のように決定された。

DT10 (2011年5,6月頃) 日本

DT11 (2013年3月頃) アメリカ (テキサス大学)

DT12 (2015年) エジプト

この結果を受けてClosing ceremonyにおいて本学会の真木会長が次回開催地を代表して挨拶を行った。今後、本学会としても次期日本開催に向けた対応、準備を進める必要がある。

(文責：豊田裕道)



ポスター発表



ドイツ (ナツメヤシの実) 収穫風景



ラクダ乗り体験